

英語学習者による異文化理解の ウェブページ構築プロジェクト

北尾謙治

はじめに

英語圏以外の英語学習者が英語に触れる機会は、テキストなどの活字資料やテープなどの音声教材を除いては非常に少なかった。最近の衛星放送、インターネットなどの発達に伴い、生の英語に、しかも発信直後に触れることもかなり容易にできるようになりつつある。とくにコンピュータとインターネット(ウェブ、Eメール、リスト、チャット)の普及により、英語学習者は、英語で交信したり、自己の情報を英語で発信することが非常に容易になった。つまり、インターネットにより、英語学習者は英語により世界の人々との真のコミュニケーションをすることが可能になった。

インターネットを英語学習に使用する方法はキーパルプロジェクト(Eメールによる文通)¹、英語学習者のリスト²やチャットによる英語の交信³、チャットを発展させたムー⁴、Eメールやウェブを利用した情報収集やリサーチ⁵、インターネットで公開された英語教材の利用⁶、遠隔教育やチュートリアル⁷など多くある。

インターネットの最大の利点の一つは、自己の情報を容易に国際レベルで発信(出版)できることで、学習者個人かグループに、ウェブページを英語で作成させて発信する方法が考えられる。英語学習者は、自己の興味のあるテーマ、学問分野、学習したいテーマ、趣味などに関する情報を収集、追加、整理、表現形式の変更や統一などの作業をし、ウェブページを作成し、予想する読者に有益な情報を提供し、よく理解してもらうことを目指す。

学習者はこの作業を通して、英語の資料を探すこと、資料の読解、資料の

真偽性の判断、情報収集、テーマに沿った情報の取捨選択、選択した情報の分類、分類した情報の組み立て、英語でまとめて書くこと、資料の描写や説明をすること、情報を読者が理解しやすいように提示すること、読者の分析、共同作業者などとのEメールによるコミュニケーションやHTMLファイルの作成などの多少のインターネット技能も含めた広範囲の学習ができる。つまり、学習者は自己の興味や関心のある内容で、多くの生の英語を使用した作業をし、コミュニケーションを主とした実践的な英語を学習するのみでなく、大学課程の学習を総合的にする訳である。

最近の英語学習の動向の一つは、共同学習/課題作業学習で、学習者が共同で能動的な学習をし、特定の作業をするもので、Hanson-Smith (1997) は、ウエブはそれを容易にすると唱えている。Mills (1995) や Zhao (1996) はウエブを利用した英語学習者のプロジェクトが有効であることを唱えている。Davies (1996) はウエブページが、教授者と学習者や学習者同士の質疑応答やフィードバックに有効であることを唱えている。野澤 (1997) は自己のクラス成果から、能動的な共同学習による英作文、自文化理解、インターネットの基本操作の修得に、ウエブページ製作プロジェクトが有効であると唱えている。Robb (1995, 1996 & 2000) は、ウエブで情報を発信することが英語学習に有効で、この作業は非常に容易であると唱えている。筆者もインターネット、とくにウエブが如何に英語教育に役立つか、その利用方法も既に論じてきた。(Kitao, 1998a; Kitao, 1998b; 北尾, 1997; 北尾 & 北尾, 1997; Kitao & Kitao, 1998; Kitao & Kitao, 1999)⁸

過去数年に亘り筆者は異文化理解のためのウエブページを学習者に作成させる課題を通して、英語学習をより充実する試みをしてきた。この成果を報告して、既に存在する多くの成果の紹介と吟味もし、このような学習方法の長短所、どのように実施すればよいかとその場合の注意点を論じ、実施するために役立つウエブページを紹介する。

公開されたウエブプロジェクト

ウエブページを英語学習者に作成させるプロジェクトは既に国内外の多くの英語教育者により実施され、作成されたウエブページはインターネッ

トで公開されている⁹。その数は非常に多いので、ここではその一部を紹介し、どのようなウェブページが英語学習に適しているかを吟味する。評価の対象は、作成されたウェブページが、文化理解の資料として如何に役立つか、英語学習者に興味深いかどうか、対象となる読者、構成のよしあしを中心にする。

京都産業大学のトーマス・ロブによる学習者プロジェクト(<http://www.kyoto-su.ac.jp/trobb/>)には、「有名な日本人」、「京都のレストラン」、「日本料理の料理方法」、「京都酒物語」などの日本文化紹介がある。この代表的なもの「有名な日本人」のプロジェクト(<http://www.kyoto-su.ac.jp/information/famous/>)で、分野別の有名人の短い伝記を同形式で書いた英作文の収集で、一種のデータベースになっている。「京都レストラン」(<http://www.kyoto-su.ac.jp/information/rest2/>)は、レストランの紹介を絵や地図なども入れて行っている。お勤めの料理やその値段まで記載されており、作者のコメントがある。料理の絵もあり、京都の地域ごとの地図にその場所が示されている。両者とも作成者、前者は作成年月とEメールアドレスも掲載されている。それで、作成者に問い合わせをすることも可能である。

各学習者が作成したページは、短い英作文で、英語の授業で十分にこなせるものである。これらの資料は日本に関心のある外国人のみでなく、日本人にも有益で、英語学習者の興味を湧かせ、この程度の作業であれば作成可能との学習動機付にも役立つ。資料として役立つのは、長年積み上げた膨大なページ数とそれを分類し、利用しやすくしているロブのインターネットの公開技術と作業が大きく起因している。

デイク・スパーリングの学習者のプロジェクト(<http://www.csun.edu/hcesl004/CSUN.html>)は、カリフォルニア州立大学のスパーリングが学習者同士でインタビューをさせて、相手の伝記を英作文のクラスで書かせ、その結果を写真と共にインターネットで公開している。これはそのクラスの学習者に全員の成果を見せるにはよい方法であるが、クラス以外の者には、有益な情報とは言いがたいし、インターネットでクラス外に発信すべき情報とは言い難い。

中部大学の小栗成子の学習者プロジェクト(<http://www-clc.hyper.chubu>.)

ac.jp/oguri/japan/write_jpn.html) は“Writing about Japan”と呼ばれ、学習者は日本文化の一面、例えば学校、家、社会、伝統、食物、季節などについて英語で書くプロジェクトで、日本について知りたい外国人や日本や日本文化をどのように英語で表現すればよいかを知りたい日本人に役立つ。小栗は、学習者が英語圏やアジアの国でした異文化体験のプロジェクト (<http://langue.hyper.chubu.ac.jp/seiko/xculture94.html>) も公開しており、日本人の観点から文化差異をどのように描写しているかの有益性がある。

立命館大学の野澤和典の学習者プロジェクト (<http://www.ritsumei.ac.jp/ec/nozawa/CALLclass-e.html>) は、豊橋市と有名な日本の科学者のプロジェクトを学習者に課している。このプロジェクトは、学習者の身近なものを英語で紹介するもので、学習者の興味湧きやすいものを取り上げている。日本に関心のある外国人と他の英語学習者がどの程度の作品を製作したのか興味が湧く英語学習者も多くいるだろう。

ヘルシンキ工科大学のルース・ピルミの学習者プロジェクト (<http://www.ruthvilmi.net/hut/Project/Culture/>) は、フィンランド文化に関して学習者が英語で書いた作文をインターネットで公開している、他のクラスでした学習者の調査結果も公開している。これらはフィンランドの文化に興味や関心のある人々や英語学習者には有益である。ただ、もう少し、整理されていればもっと利用しやすい。

南山大学の河村春美の学習者プロジェクト (<http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/kharumi/fl/classidx.htm>) はもっとも野心的なものである。学習者の作文のテーマが、墮胎、核実験、高揚する海面、地震など、大学生でも論じるに難しいものである。しかし、残念なことに作文は必ずしも十分書けているとは言えず、理解しにくい。どのような形式でプロジェクトがされたのかも不明である。

徳山女子大学の田中の学習者プロジェクト (<http://www.tokujo.ac.jp/Tanaka/Kazue/kazue.html>) は、異文化理解の観点から非常に興味深い。Eメールで異なる文化の人をインタビューしたり、インターネットで異文化に関する情報を収集したりしている。このプロジェクトを通して、インターネットを多く使用し、学習者は英語で異文化の背景を持つ人々とコミュニケーション

ョンをしている。ただ、このプロジェクトの成果は日本語で発表されているので、異文化理解の学習にはなっているが、英語話者に情報を発信する訓練にはなっていない。

スイスのジュネーブの Collège Claparède のリリアム・ハーストの“Letter-writing Project” (<http://deil.lang.uiuc.edu/exchange/projects/geneva1.html>) は、文学のクラスで「欲望という名の電車」を読んで、登場人物に手紙を書くか、その登場人物として手紙を書き、それを公開している。演劇をよりよく理解する学習として役立つ。この作品をよく知っている人には興味深い。

筆者の学習者プロジェクト(<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitaio/class/material/project/>) は海外留学、英語圏の文化、英語圏の国々の訪問のための資料、日本文化、その他の文化、異文化間コミュニケーションのテーマに分かれて公開されている。海外留学では、ある国のある特定の大学に行くことを想定して、その大学、町、国、そこでの生活、旅行など役立つ情報を整理してウェブページにまとめて、個々の資料や全体を英語で解説したもので、その大学のみでなく、その国に留学を考えている学習者には有益である。英語圏の文化は、英語圏の国やその地域、町などを取り上げて、解説するもので、英語学習者には興味深い。英語圏の訪問のための資料は、実際に行く場合に役立つことを考えたもので、実践的である。日本紹介は、日本を知らない外国人に日本文化を紹介するものであるが、特に京都のプロジェクトは、京都を訪れる人に役立つものである。一部は英作文を公開したものであるが、多くはリンク集に英語の解説文を付けたもので、リンク集はテーマを数セクションに細分化してリンクを整理している。各リンクには英語の説明が付けられている。

以上いくつかのプロジェクトを紹介したが、この種のプロジェクトは大きく以下の3つのタイプに分かれる。

英作文タイプ 学習者が英作文を書き、ウェブで公開したもの。リサーチの作業の多いものや少ないもの、作文の短いものや長いもの、リンクした情報が入っているものとないもの、図、地図、絵、写真などの入っているものなどある。作業の途中で学習者同士で助け合って作業をしたものが多いようだ。もちろん教授者の何らかの手助けや指導がある。

リンク集タイプ テーマに沿ってウェブ資料をネットサーフィンとサーチエンジンなどで探し、有益なものを抽出して、分類し、各リンクに短い英語の説明を付けたものが多い。リサーチをする学習に適しており、多くの英語の資料を多読する必要がある。

リンク集と作文の複合タイプ 両者を混ぜたもので、リンク集に、英文の概説、目的、利用方法などの英作文を付けたり、各リンクの解説を多少長めにしていくものも多くある。英作文の中に、多くのリンクがあるものは少ない。

上記の3種類のプロジェクトのテーマや内容は、自分を中心とした文化の紹介であるが、他の文化との比較や、英語圏などの文化を扱ったものもある。自(日本)文化の紹介は、原則非日本人を読者に想定しているのだろうが、英語学習者に興味深いものも多い。他文化を扱ったものは、日本人を読者に想定して、相手文化に対処する方法を前提に作成されている。

ウェブプロジェクトの長所と短所

英語学習者がウェブページを作成するプロジェクトには種々の長所と短所がある。

長所

英語を使用した種々のコミュニケーション作業を学習者にさせることが可能である。英語の学習はクラスでのみ英語を使用し、テキスト以外に読む英語もなく、評価は教授者がするのみの人工的なものである場合が多い。学習者は自己の興味や関心で英語を読むこともない。ウェブプロジェクトでは、学習者はインターネットなどの資料を収集し、多量の英語を読み、情報を整理して、自分なりにまとめ、読みやすく構成し、予定した読者によく理解できるように発表する実際的な作業を強いられる。この過程で、英語話者との実際のコミュニケーションを取り入れることや、読者とのコミュニケーション、共同作業とのコミュニケーションなども取り入れられ、コミュニケーションのための英語教育を可能にする。最終成果は全世界に公開されるので、やりがいもあり、学習の動機は高まる。

学習者は教室のような特殊な人工的な状況ではなく、実際の世界で英語の使用を体験する。とくに実際に存在する読者を意識するようになる。読者が何を知って、何を知らないかを分析することも必要になる。例えば、日本文化を外国人に紹介する場合、そのような読者にどのように説明すれば、よく理解してもらえるかをよく検討することが要求される。

リサーチを必要とするようなプロジェクトであれば、学習者はインターネット上にどのような資料があるかを探さなければならない。学習者が必要とする情報を収集したリンクページを探し、ネットサーフィンしたり、サーチエンジンを使用して、個々のページを検索するような作業をすることになる。これは、今後の学習にも非常に役立つし、学習の根本である資料収集作業を修得できる。学習者は資料を収集した後に、それを読み、そこから有益な情報を抽出し、それを結合し、うまく構成し、自分なりに、読者に分かり易いように提示することを学習する。この一連の作業をすべて英語でするので、多量の英語に触れ、英語の情報を加工したり、英語で考えたり、今までにない貴重な体験ができる。この一連の過程は英語を除いても大学の学習に役立つ基本的なものである。

このウェブプロジェクトは、学習者の興味、関心、ニーズ、英語力などに合わせて実施できる。トピックとしては、英語圏の国や文化を理解するものや日本や日本文化を紹介するものは、比較的学習者が興味を示し、学習内容としても有意義なので、多いに勧められる。

このプロジェクトを通して、学習者は読者と筆者の両方を行き来しながら、読者として、どのような英作文が読みやすく、理解しやすいか、客観的で、信頼できるかなどを学習する。また、情報を上手に構成して、いかに読者に分かり易く提示するかを学習できる。これは大学生には非常に難しいが重要な作業である。

短所とその対策

学習者は、コンピュータ、Eメール、ブラウザーなどの使用経験が非常に異なり、中には不慣れで、簡単な操作のみでも支障をきたすことがありうる。ほとんどの学習者はHTML ファイルを作成したことはなく、その知識も

皆無である。このような知識や経験の不足は、このプロジェクトを実施することを困難にする。その解決方法は、コンピュータ技術の異なる学習者で、慣れている者と不慣れな者を組み合わせたグループで作業をさせることが考えられる。また、クラスで、お互いに助け合って作業するように訓練しておくことである。HTML ファイルの作成は可能な限り避けて、見本のファイルに本文のみ書き込むようにするのがよい¹⁰。この方法では、ほんの数分で作成可能である。

サーチエンジンを有効に使用するのは学習者にとって非常に困難である。プロジェクトに必要な最小限度のサーチエンジンの使用方法を指導する必要がある¹¹。

リンクの解説や、種々の情報の説明などを英語で書くのは、学習者には難しい。教授者が学習者の書いた英語をすべて添削する必要はないだろうが、せめて、学習者が扱える英語のレベルでできるプロジェクトをする必要はある。よいサンプルを用意するのが、最も有効である。添削は避けて、問題点を指摘し、学習者自身に修正させるのがよい。

学習者の多くは、自分でトピックを選び、資料を収集して、それを読み、必要な情報を抽出して、その情報を組み立て、構成を考えながら、表現をし、読者に容易に理解できるように提示するような作業には不慣れである。この作業過程は学習者には難しいので、各段階で、教授者の指導と手助けが必要であろう。学習者のレベルや作業に費やせる時間などを考慮して、この過程のすべてではなく、ある部分を簡素化したり、全体の規模を小さくするなど、の考慮が必要である。トピックは教授者が与えた方が無難な場合が多い。資料もある程度学内サーバーに入れておいて、それを利用する方法も考えられる。

ウェブプロジェクトの実施方法

英語学習者のウェブプロジェクトの実施方法を、既に実施した経験に基づいて説明する。これは学習者の興味、関心、ニーズ、英語力により適当に変更して実施すべきものである。

英作文タイプ

最も容易なプロジェクトは、ロブの「有名な日本人」のプロジェクトのように、学習者が興味を持てるもので、読者にも有益な情報となり、しかも題材が豊富にあるものがよい。作文の仕方、書き方の形式、分量などのガイドラインとサンプルを作成し、学習者に好きな題材を選ばせて多少のリサーチをし、結果を作文させる。英語の無理のないようにのみ気を付けておれば、学習者のレベルに応じた、データベースが蓄積されていく。重要なことは、各作品の最後に、必ず筆者、製作年月、Eメールアドレスを明記することである。これにより、各自の責任感が増し、自己の責任で不特定多数の読者に情報を発信する意義を十分に感じて作文に励む。教授者が出来上がった作文を整理整頓し、読者に読みやすく提示することがこのようなプロジェクトでは重要だ。図書で言えば、目次と索引の充実に当たる。これが整理され利用しやすいデータベースになれば、有益なインターネットの資料になり、利用者も増加する。

個々の作品は短い作文で、英語力の低い学習者でも可能である。高いレベルの学習者は、数を多くするなどで調整がつく。資料としての価値はデータベースとしての分量であるので、毎年積み上げるか、同僚や知人の教授者との協力が必要であろう。

2つ以上のクラスを受け持っていたり、同僚のクラスと協力して、相手のクラスの作成した作文を読み、質問をEメールで送って、作者がそれに回答するような作業をするのもよいだろう。

英語力の高い学習者には、より高度なテーマで、より長いエッセイを書かせることができるが、この指導は非常に困難である。テーマ選び、資料収集、収集した資料を読み、情報の選別、有益な情報を分類、組み立て、読者に理解できるように構成して発表することを指導するには相当の労力を覚悟しておく必要がある。よほど具体的で容易なテーマを選ばないと、英作文の以前の段階で学習者はつまづいてしまう。

作文しやすいテーマを学習者が選ぶのは難しいので、教授者が大きなテーマを決めて、その範囲の具体的なテーマに基づいて作文させるか、予め学習者が扱え、独自の英語力で何とか表現できる、具体的な数十のテーマを与え、

その一つを選ばせるような方法が必要であろう。

資料の収集も学習者のレベルによっては、あらかじめリンク集などを用意して、多少は独自に検索させるなどの方法を考えないと、すべての資料を自分で探すのは困難であろう。

有益な資料を探せば、それを読み、その中から必要な情報を抜き出して、それを分類、統合して作文を書き上げるのであるが、理解しやすく解説するのは難しいので、下書きができた段階で、学習者同士で、読み合っ、欠けた情報を指摘しあうような作業をするのは有効である。この指摘に基づいて、最終原稿を書き上げ、今度は、互いに英語の修正をさせる。教授者は英語の添削をするよりは、まず、作文の内容指導、多くの場合は説明が不十分な個所の指摘を十分にし、英語の指導も、意味の通らない所を指摘して、あくまでも学習者本人に訂正させるのがよい。

具体的なものの方が作文はしやすいので、写真などを多く入れて、その写真の解説をするようなエッセイを書かせるのもよい。完成作品の見栄えもよいし、読者にとっても理解しやすい読み物になる¹²。

英語の図書を読ませて、その図書の紹介をするプロジェクトも有意義である。異文化間コミュニケーションや日本紹介のたぐいの英語で書かれた図書を読み、その紹介を英語で欠かせた¹³。学習者の英語のレベルによって、どのような図書を読ませるか、どの程度の紹介文を作成させるかをうまく考える必要がある。英語のレベルによっては、グレイディッドリーダーズのような容易な英語の図書を選ぶのもよいだろう。作文の分量は英語のレベルで決定すればよい。図書館にグレイディッドリーダーズや日本の種々の文化的なことを紹介した英語の図書が沢山あれば、その紹介のデータベースを作成するようなプロジェクトも興味深い。

もう少し高度なプロジェクトにするには、作文の中に、学習者が探したウェブページのリンクを含める。こうすれば、作文を読む読者は、その関連の情報を、そのリンクをクリックすることで得られるようになる。ただ、このような作文をするのは学習者には容易でないので、そのような例の文章をクラスで読むことと、その仕方を十分に指導する必要はある。

さらに興味深いプロジェクトにするには、ロブの「京都レストラン」のよ

うに、京都の地図に場所を示し、個々のレストランを紹介するものが考えられる。例えば、京都の神社、寺、学校、店のように、あるテーマで同じ種類のものを、同形式で描写するようにし、写真、絵、図なども利用して、より人目を引くようにすれば、学習者も喜んで作業をする、この場合の問題は、画像処理などの作業が増加することで、教授者の技能と労力が要求されることである。学習者にさせるには、英語学習以外の作業が多すぎ、本業が留守になる危険性が高い。

ウェブは画像などをうまく組み込めば、魅力的なものになるが、それは資料としての価値を高め、多くの人々から関心を引くが、英語教育と直接関係することではないので、あくまでも英語学習に直結することで、クラスのプロジェクトとしての範囲で実施すればよい。

リンク集タイプ

これは、英語を書くことを目的とするよりは、インターネットの資料収集、資料の分類や整理、資料の解説をして、有益な資料集を作成することである。

例えば、アメリカのある特定の大学に留学する人のためのウェブページを作成する。それに役立つウェブページを最低50収集し、それを大学関係、生活に役立つ資料、大学のある町の情報、その地域の情報、アメリカの情報、その他に分類し、さらに個々の分類を再分類して、リンク集を作成し、各リンクの短い解説を英語で付ける。

この作業では、テーマに沿って有益なウェブページをネットサーフィン、サーチエンジン、他のサーチサイトなどにより探すこと、その資料を読み、有益なウェブページを抽出して、短い英語の説明を付け、再分類し、各分類の中で順序を決めて、そのテーマのリンク集を作成する。

このようなプロジェクトのテーマは、特定の国、町、行事、制度、歴史など色々考えられるが、30-50程度のリンクでまとまりのあるリンク集になるように工夫することが重要である。このプロジェクトの特徴は、サーチエンジンやネットサーフィンをして、インターネットで有益な資料をすばやく見つけ、スキミングして、有益な情報をピックアップする訓練と、各々のリンクを解説すること、それを整理、構成して、自分のテーマにまとめることが

要求される。

リンク集と英作文の複合タイプ

これは筆者が今までにもっともよくしたプロジェクトで、上記のリンク集に、そのリンク集の解説の英作文のページを付ける。その資料の目的、対象とする読者、内容、主旨、リンクの選抜基準、構成方法などを解説したり、有効な利用方法を説明する。とくに注目すべきリンクをいくつか取り上げて、全体の中で解説することも可能である。

全体の解説が難しければ、イントロ、各セクションの説明、結論程度の英作文の解説をつけるのも一案である。

指導としては、よいサンプルをいくつか見せて、どのような作業をどのようにしてするかを手順よく、学習者と共に一通りやりながら十分に説明し、後には復習をして、学習者の作業状況をよく見守る必要がある。

プロジェクト実施に関する注意点

すでに断片的には実施する時の注意も述べたが、まとめると以下のようなになる。

上手なテーマの選び方 100-150語程度の短い作文のテーマなどは自由に選ばせてもよいが、1学期かけてするようなプロジェクトのテーマを自由に選ばせるのは難しい。身近な話題、学習者がある程度既に情報を持っているようなもの、具体的な内容、資料が豊富にあること、情報が入手しやすいもの、予想する読者が興味を持つもの、その読者に理解しやすいものなどの条件を満たすようなテーマをいかに指導しても学習者は上手に見つけれられない。

大きな作文をする場合は、テーマを与えるか、大まかなテーマの中で、小さいテーマを決めさせるか、いくつかのテーマを与えて選択させるかなどの工夫が必要である。

資料の探し方 ネットサーフィンやサーチエンジンで、いかに自分に必要な資料を探すかの指導は非常に重要である。有益な資料のあるサイトやリンク

集なども教えるべきであろう。できれば、そのような資料のリンク集をクラスのために作成しておくといよい。

学習者にとってとくに難しいのは、サーチエンジンの使用であるから、この基本的な操作は必ず教える必要がある。

とくにクラスのテーマが決まっているような場合は、教授者が資料のリンク集を作成するか、まず、学習者でそのリンクを作成してから、それを皆で使用して作業するのがよい。

資料の評価の仕方 ウェブ資料を入手した場合にその資料の有効性をどのように判断するかは重要で、よく指導する必要がある。URL からどのような情報が得られるか、誰が製作したか(個人か団体)、製作者の信頼性、資料の古さ、更新がされているか、その資料の目的と対象者、情報の理解のしやすさ、オリジナルな情報か、利用のしやすさなどを指導する。参考資料は Academic English (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitaio/class/material/academic.htm>)のevaluating the source が役立つが、学習者に理解しやすいのは、A GUIDE TO WEB SURFING (<http://www.miyazaki-mic.ac.jp/faculty/jreinhar/surf.html>) である。

HTML ファイルの作成方法 HTML ファイルの作成方法は、必要がない限り教えないほうがよい。この作業は英語学習以外で、見栄えのよいページを学習者は作成するために頑張るが、英語の向上にはつながらない、英語のレベルの高い学習者には、英語で簡単に説明した HTML ファイルの作成方法を利用して教えることは意義がある。

容易な方法としては、GeoCities (<http://geocities.yahoo.com/home/>) を利用すれば、誰でもウェブページが作成できる。解説は容易な英語で、5-10分で自己紹介のページが作成できる。

英作文の場合は、サンプル (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitaio/internet/sample/6.htm>) をダウンロードして、そのテキストの部分にワープロで仕上げた作文を貼り付け、保存すればできあがる。この場合に各行末を切っておくことが必要。このファイルがよいのは、作文の中に余分なタグがないので、

教授者がこのウェブページをダウンロードしても、Eメールで受け取っても中に書きこむのが容易なことである。

必要最小限のタグの説明は“Making Simple HTML Files” (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/kitao/int-www.htm#adv>) で公開しているので、これを読ませ、多少の指導をすれば十分である。

必要な場合は、画像を入れることも指導しなければならないが、これも、必要なタグの部分をコピーさせるように指導するのがよい。

アップロードの仕方 学習者が作成したウェブページをアップロードして皆で見られるようにするのは、Ftp でサーバーに各学習者が独自にできるように設定するのが最もよい。EメールでHTML ファイルを教授者に送り、教授者がサーバーにアップロードするのは非常に面倒な作業となる。期限に提出しない、タグが壊れている場合、教授者が見落とす場合など、種々のトラブルの原因があり、学習者自身でファイルをアップロードできるようにサーバーの設定をしてもらうように関係者と交渉すべきであろう。

作業のスケジュール 学習者は期限をなかなか守らないので、プロジェクトの最初から最後までスケジュールを明確にして、仕事が遅れないように気をつけさせる。遅れた学習者は脱落するので、脱落者を出さないように全体のスケジュールと次回のクラスの宿題を明確にする必要がある。

共同作業かピアークリティーク 学習者の共同作業がウェブプロジェクトにあることが、英語学習に有効である。学習者同士が助け合い、共通の目的のために努力するのは、各自の気づかない弱点を補い、他の学習者の作業を見ることにより、多くの学習も可能となる。

ウェブでクラス全員に見られるようにすれば、お互いに読みあって、そのコメントをEメールで送り、共同作業をすることが容易にできる。作文では、筆者と読者の両方の観点から読む必要があるので、他人の作文を読んで、情報が十分でないことに質問をさせたり、よい構成や表現にするためのコメントをさせるのもよい学習になる。この場合、友人の作文を読んで、何をど

のようにする作業を求めているのが明確にしないと、有益なコメントが友人には行かなくなる。

教授者のフィードバック ウェブで公開されたものは教授者は容易に読めるし、ダウンロードして、コメントを入れて、アップロードし、クラス全員で読めるようにするのも可能である。教授者は、全体の内容、構成、パラグラフの展開、パラグラフの構成など大きな観点から指導をするように心がけるのがよい。訂正は避けて、あくまでもどのように改善すべきか、どの改善が必要かなど、問題点を指摘するのみに留め、あくまでも製作は学習者にさせるのがよい。

成果発表会 プロジェクトの期限は、最後のクラスの前にして、最後のクラスで全員自分の作品の説明をクラス全員にさせる。このために口頭で発表することも指導しておく¹⁴。学習者は永久保存になった自分のウェブページを利用して、クラス全員にその内容を説明することにより、自分の作品の成果を確認するとともに、他のクラスメートの作品の成果を理解することで、多くの学習ができる。この時には学習者はプロジェクトの完成に満足しているようである。

有益なウェブ資料

英語学習者のウェブページ作成プロジェクトに関心のある教授者のために、筆者が役立つと思うウェブ資料を紹介する。これは4種類に分かれている。検索関係、HTML ファイル関係、文化関係の資料、そして、学習者の作成したウェブページである。

A. 検索関係の資料

インターネットを有効に使用するためには、ネットサーフィン、サーチエンジンによる検索とサーチサイトなどの利用がある。これらを上手に使用することが、インターネットを使いこなせることにつながり、インターネットを学習に利用できるようになる必須条件である。以下にその関係の有益な資

料を示す。

1. Reference Materials for Students and Researchers - Search Engines

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/referenc.htm#search>

多種のサーチエンジンのリストと検索のアドバイスの筆者が公開している資料

2. Net Search Pages

<http://home.netscape.com/escapes/search/ntsrchrnd-1.html>

種類と目的に応じて種分けされたサーチエンジンのリスト

3. Search Engine Watch

<http://searchenginewatch.com/>

サーチエンジンのリンクとその評価など。各々がどのように他のものと異なるかなどの説明がある。

4. Search Techniques Seminar

<http://kevinryan.com/student/search/>

インターネットの検索のセミナーで、基本的な検索や、高度の検索方法、多くのサーチエンジンのリストなどがある。学習者に理解しやすく、クラスでの使用に勧められる。

5. Backflip

<http://www.backflip.com/login.ihtml>

個別化したサーチエンジンで、種々の分野の"web tours" も含んでいる。これは、リンク集を作成する場合に、有益なページのURLを記録する(「ブックマーク」や「お気に入り」)をどのコンピュータでも利用できるようなものが可能である。

B. HTML 関係の資料

ウェブページを製作するための HTML ファイルに関するサイトは多くある。もちろんウェブのエディターを使用して作成することも可能ではあるが、基本的な仕組みとタグを理解していることは、非常に便利である。ウェブページ製作に関するサイトを以下にあげる。

1. Using the Internet - Writing Web Pages

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/internet.htm#write>

HTML ファイルを作成するのに役立つウェブページのリンク集で、筆者が公開しているもの

2. Making Simple HTML Files

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/kitao/int-www.htm#adv>

HTML の基本的なことを説明し、基本的なタグの見本を示す、筆者の簡単な HTML 作成方法の解説。

3. A Beginners Guide to HTML

<http://www.ncsa.uiuc.edu/General/Internet/WWW/HTMLPrimer.html>

HTML ファイルをよく知らない人に対する解説で、一般的な説明、タグの説明、その利用法などを分かり易く解説している。

4. Learning English on the Net (LEON)

<http://home.att.ne.jp/gold/db/leon.html>

英語学習者に役立つウェブページを集めたリンク集

5. How to Make a Successful ESL/EFL Teacher's Web Page

<http://www.aitech.ac.jp/iteslj/Articles/Kelly-MakePage/>

よいウェブページを作成するためのアドバイス。そのまま利用できるテンプレート、よいウェブページのスタイルやしてはならないことの忠告。

6. Webcom HTML Guide

<http://www.webcom.com/webcom/html/tutor/>

ここには、ウェブページを書くための情報、テンプレートなどがある。

7. Yahoo! Geocities

<http://geocities.yahoo.com/home/>

容易にウェブページを作成して、インターネットで公開できる。HTML の知識が全く不要であるので、最初に使用するのに適当。

8. Cut and Paste JavaScript

<http://www.infohiway.com/javascript/toc/>

ジャバスクリプトのサンプルがあり、これを利用するゲストブック、フレーム、時計、ゲームなど HTML の基本的なタグではできない高度なウェブページを作成できる。

C. 文化に関するサイト

英語の学習者にとっての適切なテーマは既に述べたように異文化理解、自文化理解、異文化間コミュニケーションである。この種のウェブ資料も多々ある。

1. Information on the US

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/us-info.htm>

筆者が公開しているアメリカに関するウェブページのリンク集

2. Useful Resources, Lesson Plans, and Teaching Materials for Teachers - Cultures

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/teacher.htm#culture>

筆者が公開している英語教師向けの文化に関するリンク集

3. American Studies Web

<http://www.georgetown.edu/crossroads/asw/>

アメリカに関する膨大な資料のあるリンク集

4. Culture Pages in English

<http://www.geocities.com/Athens/Forum/8383/>

多くの文化に関してのクラスプロジェクトのためのウェブページ

D. 英語学習者が作成したウェブページ

1. Doshisha Students' Projects

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/material/project/>

筆者のクラスの学習者が作成したウェブページの一覧

Kyoto: Ancient Capital of Japan

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/kyoto/>

京都に来る外国人のためのリンク集、以下からも見られる。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/material/project/>

[http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/.](http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/))

Studying in Various Countries

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/material/project/#s>

海外の大学に留学を考えている人のためのリンク集

その中でも以下の2つはとくに興味深い。

To Study at SOAS

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/practicum/nishizawa.htm>

Amherst College

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/practicum/kato.htm>

Welcome to San Diego!!!

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/meta/f/erika/>

サンディエゴに行く人のためのリンク集

Travel Cheap in Japan -Transportation and Lodging - (Student Project)

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/meta00/odani.htm>

日本を安く旅行する人のためのリンク集

2. Tom Robb's student projects (Kyoto Sangyo University)

<http://www.kyoto-su.ac.jp/trobb/index.html>

3. Dave Sperling's student project (California State University of Northridge)

<http://www.csun.edu/hcesl004/CSUN.html>

4. Seiko Oguri's student projects (Chubu University)

http://www-clc.hyper.chubu.ac.jp/oguri/japan/write_jpn.html

<http://langue.hyper.chubu.ac.jp/seiko/xculture94.html>

5. Kazunori Nozawa's student projects (Ritsumeikan University in Kyoto)

<http://www.ritsumei.ac.jp/ec/nozawa/CALLclass-e.html>

6. Ruth Vilmi's student projects (Helsinki University of Technology)

<http://www.ruthvilmi.net/hut/Project/Culture/>

7. Harumi Kawamura's student projects (Nanzan University in Nagoya)

<http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/kharumi/fl/classidx.htm>

8. Kazue Tanaka's student projects (Tokuyama Women's College)

<http://www.tokujo.ac.jp/Tanaka/Kazue/kazue.html>

9. Lilliam Hurst's student projects (Collège Claparède in Geneva)

<http://deil.lang.uiuc.edu/exchange/projects/geneva1.html>

注

- 1 キーパルプロジェクトに関しては、以下のページを公開している。
<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/keypal.htm>
 Keypal Opportunities for Students
 キーパルプロジェクトを成功させるための提案が以下でされており、実施する場合には非常に参考になる。
<http://www.kyoto-su.ac.jp/trobb/keypals.html>
 E-Mail Keypals for Language Fluency
 Thomas N. Robb
- 2 英語学習者のリストには、
<http://www.kidlink.org/>
 KIDLINK
<http://www.latrobe.edu.au/www/education/sl/sl.html>
 SL-LISTS: INTERNATIONAL EFL/ESL EMAIL STUDENT DISCUSSION LISTS
- 3 英語学習者のためのチャットに関しては、以下のページを公開している。
<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/chat.htm>
 On-Line Chat Information and Chat Sites
- 4 英語学習者のためのムーとしては、以下のものがよく利用されている。
<http://langue.hyper.chubu.ac.jp/ozeki/saMOOrailIntro.html>
 saMOOrail入門
<http://schmooze.hunter.cuny.edu/test.html>
 SchMOOze University
 SchMOOze大学の利用法を以下で学習者向けに解説している。
<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/schmooze.htm>
 SchMOOze University
- 5 この目的で、以下のサイトを公開している。ここには、英語学習者が情報を収集するのみでなく、教授者に役立つ情報や資料を多く含めている。
<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/>
 On-Line Resources and Journals: ELT, Linguistics, and Communication
- 6 英語学習者が利用できる英語教材と教授者が利用できる教材を以下で公開している。
<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/student.htm>
 Useful Resources and Learning Materials for Students
<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/teacher.htm>
 Useful Resources, Lesson Plans, and Teaching Materials for Teachers

- 7 英語圏では大学などをはじめ、多くの教育機関で遠隔教育を実施している。日本でも以下のように既に実施されている。

<http://englishtown.lycos.co.jp/master/school/>

EnglishTown.com

<http://www.globalenglish.com/templates/bin/template.asp?lang=JA-JP&ClassId=204&ObjectId=207967>

GlobalEnglish.com

<http://ariadne.ne.jp/education.html>

ARIADNE EDUCATION ON-LINE

<http://www.nime.ac.jp/vu-forum/shiryo.html>

日本国内で遠隔教育を行っている大学のリンク集

<http://www.distance-learning.org/japanese/dlc-j.html>

ディスタンス・ラーニング・センター

- 8 以下のサイトでも英語教育にコンピュータとインターネットを利用することを論じた論説や学習者向けの教材を公開している。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/library/article/call/>

Computer Assisted Language Learning (CALL)

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/japanese/library/call/>

CALLとインターネット特別室

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/japanese/library/article/kyoshi/>

英語教師とコンピュータ

- 9 以下のサイトで多くの学習者のウェブプロジェクトの成果が公開されている。

http://www.eslcafe.com/search/Student_Projects/

ESL Cafe Web Guide: Student Projects

http://www.aitech.ac.jp/iteslj/links/ESL/Student_Projects/

ESL : Student Projects (The Internet TESL Journal's)

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/teacher.htm#student>

Student Projects

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/keypal.htm#work>

Student Work

- 10 以下のサイトに HTML ファイルの見本と容易なタグの利用方法を解説している。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/kitao/int-www.htm#adv>

Making Simple HTML Files

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/internet/sample/6.htm>

サンプル

この本文の部分にワープロで仕上げたテキストを貼り付ければ、即ウェブページになる。但し、各行末が切れていなければならない。

- 11 サーチエンジンの指導には以下のサイトが役立つ。

<http://kevinryan.com/student/search/>

Search Techniques Seminar

サーチエンジンは沢山あるので、ある特定のもの、例えば AltaVista や Yahoo などに限るのがよい。検索方法も主なもの数方式をリストにしたハンドアウトを配布するのがよいだろう。初心者であれば、Ask Jeeves! は、普通の英語の質問で検索できるので、利用しやすい。

- 12 以下のサイトで下田の紹介をしたものを公開している。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/et/shimoda/s3.htm>

History and Legend in Shimoda, Japan

写真があれば、如何に理解しやすく、読者が興味を持って読めるかが理解できる。

以下のものは同様の仕様で作成したが、旅行記で、日本国内の旅行、見学、近くの散策などをまとめるのは比較的容易であろう。近くの有名な所などの紹介などはよいテーマになる。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/et/>

EDUCATIONAL TOURS

- 13 以下のサイトにある同志社大学で所蔵している異文化間コミュニケーションと日本紹介の図書を各自で選んで、サンプルに従って図書紹介を書かせた。学習者の英語のレベルを考慮して語数は100-150に少なくした。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/japanese/library/resource/intercultural/>

異文化コミュニケーション基本図書

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/japanese/library/resource/japan.htm>

日本を紹介する英語で書かれた本

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/japanese/library/resource/books-on-japan.htm>

Books on Japan

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/library/resource/intercultural/masante.htm>

サンプル

- 14 以下で、口頭発表とはどのようなもので、その準備と仕方を公開している。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/library/student/public.htm>

Public Speaking

参考文献

- Davies, L. (1996). Teaching culture through the Internet. *Communique*, 26(3&4), 4-5.
 Hanson-Smith, E. (1997). *Technology in the classroom: Practice and promise in the 21st century* (TESOL professional papers No. 2). Alexandria, Virginia: TESOL.

- Kitao, K. (1998a). *Internet resources: ELT, linguistics, and communication*. Tokyo: Eichosha.
- Kitao, K. (1998b). Finding on-line resources for linguists and language teachers. In K. Cameron (Ed.), *Multimedia CALL: Theory and practice* (pp. 167-174). Exeter: Elm Bank Publications.
- 北尾謙治 (1998) インターネットを使用した英語教育の試み 言語文化 第1巻第1号 pp. 195-220.
- 北尾謙治 & 北尾 S. キャスリーン (1997) 英語教育のためのパソコンとインターネット より効果的な英語教育を求めて 東京：洋版出版
- Kitao, K., & Kitao, S. K. (1998). Using the information superhighway: Resources for linguistics, language teaching, and communication. In P. Lindell (Ed.), *FLEAT III: Foreign language education and technology: Proceedings of the third conference* (pp.199-206). Victoria, British Columbia: Language Centre, University of Victoria.
- Kitao, S. K. & Kitao, K. (1999). Using on-line chat in language teaching. In K. Cameron (Ed.), *CALL and learning community* (pp. 251-259). Exeter: Elm Bank Publications.
- Mills, D. (1995). A home on the web: Our experience. *CAELL Journal*, 6(1), 10-15.
- 野澤和典 (1997) WWWプロジェクトによる共同学習と自文化理解 In P. Lewis & T. Shiozawa (Eds.), *CALL: Basics and Beyond* (pp. 97-104). Nagoya: JALT CALL N-SIG.
- Robb, T. (1995). Web projects for the ESL/EFL class: Famous Japanese personages (<http://www.kyoto-su.ac.jp/~trobb/projects.html>).
- Robb, T. (1996). The web as a tool for language learning. LLA 関西支部研究収録, No. 6, 1-11.
- Robb, T. (2000). Teaching writing with web projects: famous personages in Japan. In E. Hanson-Smith (Ed.), *Technology enhanced learning environments* (pp. 125-134). Alexandria, VA: TESOL.
- (この研究は、同志社大学学術奨励研究費(2000-2001年)と日本学術振興会の科学研究費補助金(1999-2001年)を受けて行った研究成果の一部である。)

English Students' Constructing of Web Page Projects for Intercultural Understanding

Kenji KITAO

The Internet can allow students of English to use English for communication, which is not otherwise easy in non-English-speaking environments. Among the ways that the Internet can be used is through keypal projects, student mailing lists, chatting, MOOs, collecting information or doing research using e-mail and web pages, using English learning resources on web pages, and distance learning or tutorials.

One effective way to use the Internet for English teaching is a group web page development project in which students collect information on a particular topic, read it critically, choose relevant information and organize it, synthesize the information in a way that is easy for readers to understand, and make a web page to make their writings available to others around the world. This project includes many important skills students need to develop in college and gives them a chance to learn collaboratively. They learn audience analysis and communicating with others. They also learn the basics of research, writing, the Internet, and even the making of HTML files.

I have organized this type of project for several years. I have reviewed similar projects both in Japan and abroad (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/teacher.htm#student> Student Projects), discussed advantages and disadvantages of this project, explained how to do this project successfully and pointed out some useful Internet resources in this paper.

Web Projects

Though there are quite a variety of projects and ways of approaching them, there are basically three types: essay writing, making links pages for a subject, and a combination of those two.

The topics of the projects are usually the students' culture, a comparison of their culture and a target culture, or a target culture. The first one is most common, but they can all be quite interesting and useful for English students.

There are different levels of sophistication. The simplest projects are just a web page with students' short writings, some of which involved gathering information; the most sophisticated ones include research and extensive writing in English.

Advantages and Disadvantages of Web Projects

The biggest advantage of this project is that students use English for communication and do basic procedures for research. They do work for real communication, develop basic skills in using the Internet and computers, use various skills in English, and develop an understanding of communication from the viewpoint of both readers and writers. Students can choose a topic which they are interested in. This project can be adjusted to students' English levels. It is easy for students to help one another to study English.

The main disadvantage is that students' levels of knowledge of the Internet and computers vary great deal, and it is difficult to carry out the project. Very few students have had experience making HTML files. They are not accustomed to doing research, collecting information, and distinguishing between useful and useless or irrelevant information. Students do not usually know how to use search engines efficiently. They are not used to explaining information in English. The process is difficult, and teachers have to teach many skills, including gathering resources;

reading about the topic; selecting, organizing and synthesizing useful information; and presenting the final product effectively. Since this project involves extensive use of English and a variety of types of tasks, it is not an easy assignment. However, all aspects of the project except making HTML files helps develop skills that are necessary for university students.

Procedures for the Project

Essay type: The easiest project is writing something short, concrete and interesting for both writers and readers and making a good database. The teacher should give students guidelines for writing the essay and a sample. There should be variety of resources for writing. This type of project can be suitable even for students whose level of English is not high. It is not very difficult to write a paragraph or two. The important goal is to make a good database of those students' writings.

Descriptions of books are very good for this type of project. This involves reading. Students read graded readers or easy books in English, and they write an essay about the book which may include such information as the target audience, the purpose, content, scope, and the student's own opinion of the book. This database is useful for the future students to help them choose books that they want to read.

Longer essays are more difficult. Students may not be able to choose a good topic, so the teacher can give students a concrete topic that they are familiar with. Also it might be good to provide some resources which they can use for writing. Teachers need to teach students how to choose valuable information, evaluate it, organize it and write an essay about the topic.

Link type: In making a links page, students can have one topic with a number of subtopics. They can gather 5-20 links for each subtopic using search engines, other links pages, and net surfing. They add a brief description and/or comments on each link. This involves a lot of searching and reading of resources. Some Internet skills are necessary. However,

students enjoy doing this, and they can make fairly useful pages as well as developing good web searching skills. Teachers need to teach the efficient way to work, otherwise students need to waste much time and energy.

Combination type: This is the type I have used most in the past. It involves making a links page with an introduction and a conclusion or a description and explanation of the links page, such as the purpose, targeted audience, contents, organization, how to use it, etc. It might also include an explanation for each section.

In any case, teachers need to teach students how to choose a good topic, how to gather resources, how to read them critically, how to evaluate them, how to choose relevant information, how to organize information, how to write about the topic, etc. It is also important to teach the basics of the Internet.

The procedure in the class is important. Students help each other to work on this type of project, and also they need to take into account both writer's and reader's viewpoints. Critical reading and evaluating resources are particularly important.

In the final class, students can explain their projects to the class, and they can learn to make oral presentations as well as sharing their work with their classmates.

In the project, learning to use the Internet and computers should be the minimum accomplishment. Teachers can provide samples and very concrete directions on how to work on the projects. Saving good examples in the previous years is very helpful. Teachers' occasional feedback is very important, but they should not make corrections of students' English. They just make general suggestions and point out problems instead of correcting errors.

In any type of project, teachers need to emphasize that the final result will be on the Internet and can be read by people from all over the world. Thus, students are responsible for the final product, and their names should be at

the end of the product.

Useful Resources for Web Projects

There are many useful resources for carrying out this type of project. I have included some useful ones, which are among the ones I have used most.

Note: This work was funded by Doshisha University's Research Promotion Fund, 2000-2001, and a Grant-in-Aid for Exploratory Research, 1999-2001, from the Japan Society for the Promotion of Science.